資料２

２　ＩＣＴ教育の推進について

平成３１年度北斗市　市政執行方針・教育行政執行方針

ＳＤＧｓを踏まえた取組

質の高い教育をみんなに

すべての人が、包摂的で公平な、質の高い教育を受けられるようにします。また、誰もが生涯学び続ける機会を得られる環境をつくることに取り組む

社会で生きていく実践的な力の育成

（平成３１年度教育行政執行方針）

全小中学校に導入されたタブレットの活用

- **「プログラミング的思考」を育成するプログラミング教育の推進**
- 発達段階を踏まえた情報モラル教育の推進
- タブレット端末の授業での活用の継続と実践成果等の共有

新学習指導要領を踏まえた「情報活用能力」を市内の全児童・生徒に育成し、高めていくために

北斗市タブレット端末導入を基盤としたＩＣＴ教育に係るプロジェクト
令和2年度以降の展望（案）

児童生徒の
学力向上

効果的な授業改善と働き方改革
タブレット端末等ＩＣＴ機器と授業改善クラウド活用

教師の資質
能力向上

未来社会をたくましく生き抜くための
①適切な情報活用能力
②必要な情報モラルと情報スキル
③プログラミング的思考
を育成する

令和２年度　「タブレット端末等活用を基盤とするＩＣＴ教育に係るプロジェクト」立ち上げと推進

令和2年度導入をめざして
北斗市授業改善クラウドの設置と運用準備

クラウドには、学年ごとに、各教科・総合的な学習の時間・特別の教科道徳・特別活動・その他で使用したあるいはこれから使用する
①単元計画
②１単位時間の指導計画・指導案
③板書計画・板書代わりに提示するデータ
④発問計画
⑤ワークシート
⑥ＩＣＴ機器やアプリ・ソフトの操作マニュアル（授業での使用に特化したもの）
⑦指導記録
⑧その他
が保存。市町内の全教職員で授業

令和元年度　上磯小・浜分小・久根別小・谷川小にタブレット端末導入
市内小中学校にタブレット端末導入完了
北斗市ＩＣＴプロジェクト報告書作成

令和2年度に向けて
9年間を見通した
プログラミング教育
情報モラル教育
情報スキル

北斗スタンダード

平成３０年度　上磯中・浜分中・大野小・市渡小・萩野小・島川小・沖川小にタブレット端末導入
道南情報教育研究会ネットワーク研究大会（大野中会場）

平成２９年度　大野中・石別小・石別中・茂辺地小中にタブレット端末導入
北斗市ＩＣＴプロジェクト報告書作成

平成２９年４月
北斗市タブレット端末導入を基盤としたＩＣＴ教育に係るプロジェクト発足

○プロジェクトの目的

（１）　平成２９・３０年度の成果と課題をもとに、平成３１年度タブレット端末が導入される北斗市内小中学校において、導入と活用がスムーズに進行するようサポートする。

（２）　北斗市内小中学校に導入されるタブレット端末を活用し、児童生徒の情報活用能力を育成するための、具体的方策を講じる。

①タブレット端末活用の継続と実践成果の共有・・・情報活能力の育成

②小中学校９年間の発達段階を踏まえた情報モラル教育の指導計画の構築

③「プログラミング的思考」の育成を目指したプログラミング教育の指導計画の立案

（３）　タブレット端末導入によって、授業改善と校務にかかる時間短縮が行われ、「教師の働き方改革」につながることを検証する。そのために、教材データを共有できる「授業改善クラウド」について、平成３２年度に導入を目指して、導入・活用のための研修と検証を行う。

○プロジェクトメンバーの役割

（１）北斗市タブレット端末導入を基盤としたＩＣＴ教育に係るプロジェクトの推進

（２）タブレット端末導入・活用にあたっての各校の中心的役割を果たす

（３）タブレット端末等活用にかかわっての研修会の実施

（４）タブレット端末導入校へのサポート

（５）タブレット端末等授業実践等の活用状況の公表と市内小中学校への共有

（６）情報活用能力の育成、情報モラル教育の取組、プログラミング教育への対応

（７）タブレット端末活用にかかわっての成果と課題について報告書を取りまとめ作成

○何のためにタブレット端末を活用していくのか

（１）ＳＤＧｓの視点からみたタブレット端末活用

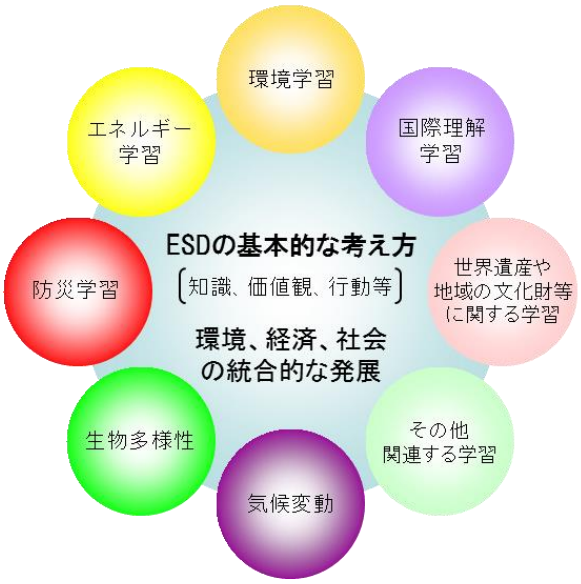
新学習指導要領が２０３０年の社会と子供たちの未来を想定していることは周知の事実である。これは、現行の学習指導要領の理念にも生かされている「持続可能な開発のための教育（ＥＳＤ）」と２０１５年に国連サミットで採択されたＳＤＧｓが基盤となっている。ＥＳＤの視点に立った身に付けたい力として

①批判的に考える力
②未来像を予測して計画を立てる力
③多面的、総合的に考える力
④コミュニケーションを行う力
⑤他者と協力する態度
⑥つながりを尊重する態度
⑦進んで参加する態度　など

が挙げられており、その指導を進める重点として、

Ａ　教材のつながり Ｂ　人のつながり Ｃ　能力・態度のつながり

の三点が挙げられている。教材や人を内容的・空間的・時間的につなげていくためには、ＩＣＴは有効であるし、効果的に活用されなければならない。また、ＳＤＧｓが示す達成すべき１７の目標はそれぞれ独立したものではなく、「教育が全てのＳＤＧｓの基礎」であり「全てのＳＤＧｓが教育に期待」しているとも言われている。「プログラミング教育」を独立したものとしてとらえると、なぜ小学校に？という疑問が出てくるのは当然であるが、「持続可能な開発のためも２０３０アジェンダ」から俯瞰的



にとらえると、それはこれからの社会を担う子供たちに必要な資質・能力として、育成すべきものであるということがわかる。

特に「４　質の高い教育をみんなに」の実現のためには、タブレット端末等ＩＣＴ機器を活用した教育を推進することで、児童生徒の「情報活用能力」を高めていくことが近道であることは言うまでもない。北斗市長の「７つの政策目標」の一つでもある「ＳＤＧｓ」の理念を、市内小中学校で確実に実現させていくためにも、タブレット端末活用が基盤となっていく。

（２）何のためにタブレット端末を導入・活用するのか

平成29年12月20日付北海道教育委員会「北海道における教育の情報化推進指針」によると、教育の情報化推進の取組の方針として、５点が挙げられている。

１　子どもたちが適切な情報活用能力を身に付ける
２　ＩＣＴを活用した「分かる授業づくり」を実施する
３　遠隔授業、遠隔研修により、全道の教育の質の向上を図る
４　校務の情報化により、業務の効率化と学校運営の改善を図る
５　教育の情報化のための体制整備と教員研修の実施